



リスクヘッジ

宮城野高校同窓会会長

堀 清 志



暦の上では春とはいえ、まだまだ寒いこの時期、宮城野高校を巣立たれた皆さんは如何お過ごしでしょうか。私は昨年四月から社会人になり、遠くから母校を思いながら、東京で所謂リーマン人生に精を出しています。職種は金融系のS E(システムエンジニア)で、限りなく金融に近いIT業界の職業です。最近では株券電子化対応を行っています。皆さんの御実家にタンス株はありませんか？

そうした仕事を進める上で、リスクヘッジという言葉に耳にする機会がありました。この言葉は特に資産運用をしている方がよく聞くものだと思いますが、将来のリスクを回避(ヘッジ)するという意味の用語です。私はデリバティブ(金融派生商品)とは何かを調べるに当たり、初めてこの言葉を知りました。そして、リスクヘッジは自分に不利な事態(リスク)が発生した際に損失を回避する一方で、自分に有利な事態での利益すらも逸してしまうことがわかりました。

私はこのことが非常に含蓄のあることだと思えました。というのも、リスクヘッジは人生においても同様なものではないかと考えたからでしょうか？

編集・発行
宮城県宮城野高等学校
同窓会事務局
〒983-0021
仙台市宮城野区田子2-36-1
ホームページ
<http://miyagino-highschool.com/entrance.html>
E-mail
info@miyaginohighschool.com
第11号
2008年3月1日発行
題字：田代ひとみ先生

「同窓会」って何？

校長 佐藤 東志夫



「同窓会って何？」と改めて聞かれても「同窓会は同窓会でしょ」と答える他はないかと思えます。確かにそうです。実は私も同窓会についてあまり深く考えたことはありませんでした、たまに集まって昔話で懐かしみ、時には寄付を求められるが、居心地の良い仲間の集まりというイメージかもしれません。

二つ目は、卒業した先輩として物心両面で学校を支援していく立場ではないでしょうか。ある時は誉めて頂き、そしてある時にはしかって指導する。そのような存在が同窓会というものだと思います。

三つ目として、在校生の目指すべき目標としての存在。先輩たちはこの学校でこのように学び、卒業後は各界でこのように活躍している。その姿を在校生に示して、自分たちも一生懸命頑張ればあの先輩のように成れるのだ、という励みとしての存在。この三つ目が一番大事な所だと思えます。在校生の憧れる光り輝く先輩の活躍。「ああやはり宮城野高校の卒業生は凄い。私たちもこの高校で学べるのが誇りだ」と思えるような先輩になつてほしい。それが同窓会ではないかと思えます。先輩の皆さんの活躍に期待します。

宮城野高校特集号

校長先生にお聞きしました!!

今年度（平成十八年四月）に本校に着任した佐藤

東志夫校長先生は宮城野高校初の民間人校長です！

宮城野高校以前の御職業や経験なされたことについてお話を伺ってきました。

高校の校長先生になられる前は、どのようなお仕事をなさっていたのですか。

銀行員をしていました。国際部にいた頃にニューヨーク支店立ち上げの業務に携わりました。以降は日本とアメリカを行き来する生活でした。

校長先生になられたきっかけはどのようなものだったのですか。

人とのめぐり合わせという部分が大きいですね。僕自身もちょうど第二の人生を考えていた頃に、銀行からの推薦というか後押しもあり、その流れで試験を受けました。

もともと教育に関する関心

はおありだったのですか。

両親が共に教員だったので、その影響はあるかもしれませんが、その影響はあっても身近に接していきすぎたせいで、「こんな無責任のある仕事は、私には無理だ」と思い、学生の頃に教職は考えていませんでした。ただ年を重ねるにつれて、何も聖人のような人でなくともいいのではないかと、色々な経験を積んだからこそできること

もあるのではないかと、思いなおし、今に至っています。

仕事をする上で、銀行での仕事と校長先生としての仕事との相違点を感じますか。

違いを感じることは特に多いですね。根本的な目的

意識の違いです。ビジネス

においては経済発展ということ一つをとっても、商売の質や企業倫理等様々な目的はありますが、結局は利潤に落ち着いていきます。

一方で学校はそうした数字では測りきれない部分があります。高校の質の良さは、大学進学率の数字だけでは決まりません。経済とは違った意味での長期的視点が必要になると思います。

また学校的な体質にギャップを感じました。学校という組織にいるとどうしても外との交流が少なく、内内になっていってしまします。そうして育った文化は外の文化と交わりづらくなっている印象があります。

今の宮城野高校についてどうお考えですか。

どこにいても組織というものはあります。一定人数に目的を達成させるといふ点では学校も会社も同じ

です。ただ会社というのは即ち軍隊組織なのです。命令をかければそれに従う。

これが行過ぎると各自が盲目的に指示に従うだけで、行動の是非を考えなくなってしまう。その意味で学校は民主主義的な組織です。

言わば直接民主主義の形で、皆が意見を言うだけで何も方向を決定できないことになってしまふ。上意下達の組織と民主主義的組織のほどよい融合が必要と

思います。

宮城野生について、一言お願いします。

今、宮城野にいる生徒たちには本来の意味の自由を体得して卒業してほしい。宮城野の自由とは「創造的自由」であるということ。三年間何もなさないまま、もやもやした気持ちを抱えたまま外に出て行ってほしくない。自由とは基本的なコトをクリアした上で成立するものです。そうしたことに気づけるように先輩方からも刺激を与える機会を作ってほしいと思います。

懐かしき

土ゼミの世界

「琴と尺八を体験しよう」「和太鼓&ラダートレーニング」・・・魅力的なテーマが並んだ二〇〇七年十二月の宮城野高校土曜ゼミナール。当日は生徒だけでなく保護者の方のご来場も目立ちました。また外部からの講師だけではなく、同窓生による講演や宮城野の先生による講演もあり、和やかな雰囲気での土ゼミとなりました。右の写真は「医学部ってどんなところ？」での六回生小鷹悠二さんによる講演の様子です。大学生活や研究について話す姿に在校生たちは熱心に聞き入っていました。終わり頃には生徒との質疑応答による交流も見られ、生徒たち



は自分たちの進路の悩みを先輩にぶつけていました。大講義室で行われたのは株式会社タカラトミーの社員さんによる「コンテンツとデザインについて」おもちゃを生み出すために必要なセンスについて生徒の視線にたって語っていただきました。具体的な実践指導は、美術科の生徒さんたちにとつて大きな刺激になったのではないでしょう



か。宮城野生にとっては懐かしい響きを持つ「土ゼミ」。あなたも次回は学校を訪ねてみてはどうですか。



2007年 土ゼミ開講講座一覧

琴と尺八を体験してみよう
 コンピューターネットワークの世界
 あなたの体は大丈夫？
 外国語としての日本語
 真面目な bowling 講座
 恐ろしくないサメの話と恋する魚の話
 フランス菓子を作ろう
 医学部ってどんなところ？
 原爆の悲惨さを体験者から聞く
 コンテンツとデザインについて
 和太鼓&ラダートレーニング
 出版の話

画家の見たチベットの世界
 家具作りの実際
 ビーズ細工
 MAP 体験
 はじめてラケットを持つ君のために
 ラクしてダイエット
 好奇心旺盛に行動すると、社会が見えてくる
 すぐ使える PC スキルアップ講座
 金メッキで絵を描こう
 化石採集
 冬鳥を見よう

平成十九年、六月七日、宮城野高校にて文化的行事「FREEDOM」が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、にぎやかな雰囲気会場を包んでいました。特に目を引くのは正門に大きく設けられた入場ゲート（左中段の写真です）。またそれに負けないくらいの校舎全体の豪華な装飾。色鮮やかな飾りつけは来る人の目を楽しませていたようです。
ダンス発表やファッションショーなどのステージ発

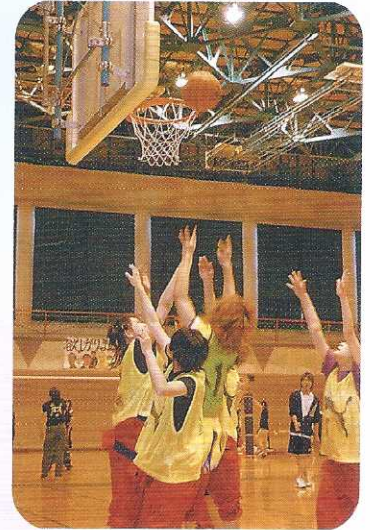


表や多彩な展示会場は宮城野の文化的行事の一つの目玉になりつつあります。開校十年を迎える当校も徐々に行事の形を作りつつあるようです。



二〇〇七年度 文化祭

体育祭



平成十九年五月十七日、十八日宮城野高校で体育祭が開催されました。タイトルは「筋肉記念日」。生徒のユニフォームや仮装に加え、多様な競技種目が祭りに彩りを添えていました。競技は大きく三種目に分かれます。一般種目としてはバレー、バスケット、ドッジボール、更には運動会種目

（二人三脚や台風の目りレーなど）。また全員種目としての大縄跳びは今年初のもの。（写真右の様子です。）これらに卓球や剣道などのフリー種目もあり、宮城野ならではの賑やかな体育祭となったようです。形を変えつつ受け継がれる、宮城野的な体育的行事。この後はどんな進化を遂げていくのでしょうか。



サークル事情

ついに
発足!?

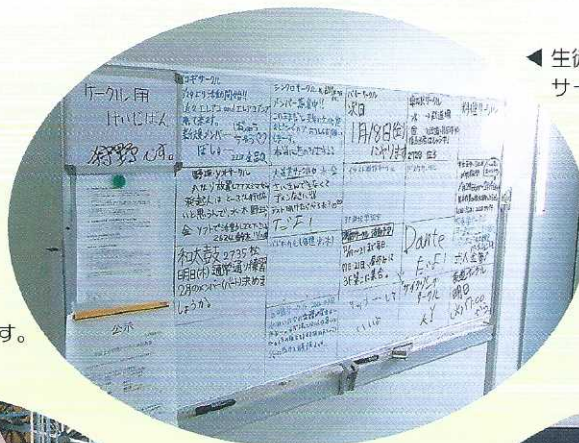
生徒会の歩み

以下が平成 19 年度の宮城野高校のサークル一覧です。思い出の 1 ページとなったサークルはまだ存在しているでしょうか。新しいサークルも続々生まれてきています!

- | | |
|-------------|---------------|
| アコースティックギター | バドミントン |
| 和太鼓 | 文芸 |
| 管弦楽 | 卓球 |
| 軽音楽 | 剣道 |
| バスケットボール | フットサル |
| サッカー | 演劇 |
| イラスト創作 | 吹奏楽 |
| ダンス | シンクロナイズドスイミング |
| バレーボール | 美容 |
| 陸上 | 大道芸 |
| 合唱 | 野球・ソフトボール |
| 料理研究 | |

- 平成 7 年度「生徒会ボランティア」
- 平成 10 年度「オピニオンポスト」
- 平成 13 年度「リサーチャー」
- 平成 13 年度代議員会
- 平成 15 年度後期
 - 宮城野ボランティア「元」
 - 全校投票推進ボランティア
 - 宮城野行事向上ボランティア
- 平成 16 年度 Spin CSV
- 平成 17 年度 9 月「第一回生徒総会」
- 平成 18 年度 9 月「第二回生徒総会」
- 平成 19 年度 9 月「第三回生徒総会」

変わり行くミヤギノ

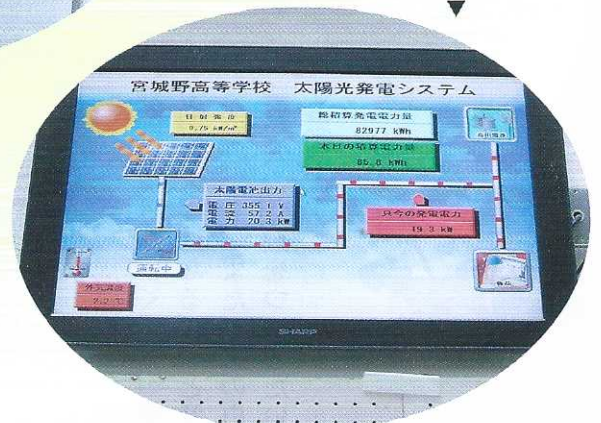


◀ 生徒たちの新しい情報交換のカタチ。サークル掲示板!

体育館にはなんと校歌が掲げられています。これで卒業式もへっちゃらですね。



下駄箱を過ぎると壁に太陽発電のパネルが! なんだかかっこいいですね。





以前は屋外だった部分が大幅に改築されています。開放感に富んだ空間で、和やかなランチタイム。昼休みはいつも生徒たちでにぎわっています。



▲ 自習のための机も揃えられています。放課後にはここで勉強する生徒の姿も見られます。特に三年次は、早朝からの自習に励んでいる様子が見られます。



▲ 食堂のメニューも年々新しくなっています。日替わり定食や焼肉丼など豪華な品揃えとなっています。

現在、外の気温はおよそマイナス10℃。北の大地で住むようになってから、早いもので一年になるうとしていますが、未だにこの刺すような寒さにはなれませぬ。さて、通学路が無くなるほどの大雪にも負けず、おかげ様で毎日楽しい大学生活を送っています。特に一年の後期に入ってから、知り合いで数も増え、美術系の個性豊かな仲間達と、鍋を食べたり、鍋を食べたり、鍋を食べたりと家族同然のお付き合いをしていきます。私は去年の夏休み明けから、度々性別もコースも越えて不定期に人が集まり開かれる、会合的なものに参加する様になりました。といっても、やることと言えば、皆で夕飯を

「鍋と仲間と鍋」

十回生

小山 三賀子

食べたりに、皆で誰かの誕生日を祝ってみたいりと、実に平和なことばかりで、いわゆる一般的な飲み会とは少し違います。そして集まるメンバーも美術をやる人間故なのか、恐ろしいほどにバラバラで、唯一の共通点と言えば「キャラが濃い」(笑)しかし、個性が強すぎてまとまりが無いということはなく、むしろ奇妙なくらい団結していて、それがまた不思議な魅力でもあります。それはお互い尊敬し合える仲間だからなのか、全員が大人だからなのか、私にはまだ分かりませんが、とにかくその会合に参加する人々は皆「自分は自分!」と胸を張って言えるであろう人ばかりです。ある一つの言葉を投げ掛ければ、必

ずその場にいる人数の分だけ違う答えが返ってきます。まさに十人十色。そして、誰に対しても揺るぎ無い自身の「色」を出せることにそれぞれ誇りを持っているというのも素晴らしいことです。

きっと近々、例のメンバーで新年会と称して再び鍋パーティーが開かれることでしょう。周りの素敵な仲間には負けないくらい、魅力的な人間になるぞ!と意気込みつつ、また大量の白菜が入った鍋をつつきたいと思います。



「十年一昔」

十一回生年次主任

清野晃正



は気付いていたでしょう。

私が生徒指導部長の時、

「宮城野の自由とは何か？」という問いを生徒諸君に投げかけました。「校則がない」「生徒会がない」「やりたいと言えども何でも出来る」という誤った認識は、私が赴任した時、すでにありました。責任を伴わない権利などあり得ないし、高校である以上、その枠を越えた自由など認められるはずもありません。

「宮城野は変わった」「普通の学校になった」「活力に欠ける」等の言葉をOB諸君から聞くことが度々あります。しかし、変わって当たり前なのです。十三年も経過して、成熟していかないのでは話になりません。活気がなくなっただけではなく、進展しているのだから、進展しているのだと考えて下さい。生徒の自治組織も漸く、初動し始めました。まだまだ拙い面はあると思いますが、そつと見守って欲しいものです。

平成十年の三月下旬、八巻一雄初代校長に呼び出され、二日間にわたり朝から夕方まで、各分掌の主任達から宮城野高校についての詳細な事前レクチャーがなされてから、早十年の歲月が過ぎ去ろうとしています。同期の教員は磯部先生のみで、最古参となつてしまいました。オープンホームルームの二十四ホームの担任を任せられ、週に二十一時間の授業を持ち、高文連の事務局を担当し、視聴覚部長という初年度は、「殆どの教員が毎日朝七時半前から夜八時ぎりぎりまで働く職場って何なのだろう。三年間で半数の教員が入れ替わるのも無理はない。」等々と愚痴をこぼしながら、過ごしていました。教員の過重負担による「生徒の自由」が実態なのは、心ある諸君

宮城野高校に関する一つの短い考察

三宅裕之

自分が高校生の頃には、桜の花を見て、人並みにきれいだと思う程度で、さほどの思いはありませんでした。ましてや梅の花などには、関心すら湧かなかつたように思えます。歳を重ねるとともに、花を好きになりました。初めは多くの桜や躑躅が華やかな満開を競う美しさに、ぼつと見とれていました。ところが、最近では、一本の桜や梅に心が魅かれます。

車で田舎の方を走っていると、田園の中に、一本だけ咲く梅や桜を見かけることがあります。梅でも桜でも、あるいは桃でも、春を感じさせる花というのは、群れていると豪華で艶やかなのですが、一本だけだと妙に控え目に思えます。それが、かえってその花の美しさを際立たせているように感じられるのです。

孤高の美と言えりながらも、最近、感じることがあります。花木は一本でも、あるいは群れていても綺麗ではあるのです。けれど、春の花は春の暖かく穏やかな空気とともに、冬の花は冬の張り詰めた空気とともに咲いているのがより美しいと感じられるのです。色の美しさ、華やかさだけでなく、そのような季節を感じさせる咲き方が美しさを作っているように思えます。

季節を感じさせるといいますが、違ふかも知れません。むしろ、季節と一体化したと言ふべきかも知れません。空気、温度、陽光。それらすべてと調和した美しさに目を奪われるように思えます。真冬の向日葵もいかに

しれませんが、それを想像すると、何か無理して花を咲かせている感じが拭えないように思えます。やはり、向日葵の美しさは夏の強烈な日差しを受け止める力強さから生れるものなのではないでしょうか。

私の好きな言葉に、「百花、春至つて、誰が為に開く」という言葉があります。直訳すれば、「多くの花は、春が来て誰のために咲くのか」ということでしょうか。反語だと考えておきます。ですから、「誰のためでもない」という意識が補えるでしょう。

問題は、次なのです。「誰のためでもない」とすれば、何のために咲くのでしょうか。

種を保存するという生物の本性から考えれば、「誰のためでもない、自分のために咲く」と理解することもできると思えます。

しかし、「誰のためでもない、自然に花は咲く」という解釈もできるのではないのでしょうか。その解釈には、ダイナミックなものを感じます。私には、それがいいように思えます。

花そのものの艶やかさ、美しさ、だけではあそびまで人の心は魅せられるでしょうか。やはり、それを美しく見せる様々な要因と自然に調和しているからこそ、花は短命な美しさを印象付けてくれるのだと思います。自然さ。自然に咲いた花の、自然な美しさ。それが、花の本当の美しさなのだと思います。

だとすると、先述した孤高の美など、本当は無いのかもしれない。「宮城野……」では一人ひとりが輝きます」

宮城野高校に着任して、悪くないと思つたもの一つです。「一人ひとりの輝きの総和が宮城野高校の輝き」だという、極めて単純な、それだけに微笑ましい言葉だと思えたからです。ただ、ちよつと人目を惹こうとする造作が感じられる気もしますが。

でも、冷静に考えると、「一人ひとりが輝く」を文字通りに受け取ることは誤りではないかと思うのです。いや、誤りではないにしても、言葉足らずに思えます。先ほど、孤高の美というものは無いのではないかと言いました。つまり、一人ひとりの輝きは、それを実現する様々な要因を抜きにしては考えられないのだと思います。だとすると、あのテーマが実現するためには、「一人ひとり」が「自ら」輝くのではなく、「一人ひとり」を輝かせる作用が「一人ひとり」によつてなされる必要があるのではないのでしょうか。

人間は、様々な集団に帰属して生きていかざるをえません。自分一人で生きていくのだと主張するのは、現実を見抜くことができず、夢の中から出ようとしない甘えに過ぎない。だとすれば、その帰属する社会集団を、向上・発展させるのは少なくとも崩壊させないことは、構成員として常に意識すべきことだと思います。

あの宮城野高校のテーマは一見して理想主義的です。けれど、優れて現実に自らの属する社会を向上・発展させるためにあるべき姿を示しているとも思えるのです。改革しよう！などという嫌味がなく、自然な発展をするために何が必要か。それを、ちよつとわざとらしくはありますが、表現しているように思えます。

と、すると、宮城野高校を卒業した、あるいは卒業するみなさん。あのテーマを高校時代だけの思い出にするのは、ほんのちよつとだけ勿体無い気がするのは、私です。

オモシロイ 宮城野生

急募

同窓会誌「たんぽぽ」は卒業後の皆さんの活躍を多くの同窓生に知ってもらいたいと考えています。
 大学でこんなことを学んでいるなど、現在のみなさんの近況を紙面で報告してみませんか。自薦、他薦は問いません。もしかしたらインタビューに伺うようなことも!?

「たんぽぽ」はそれに伴ったサポートスタッフも常時募集中です!
 面白い活動をしている宮城野生を知っている人、自分の活動を同窓生に伝えたい人、「たんぽぽ」作りをサポートしたい人、等等ありましたら左記の連絡先までメールをお願いします。

片平 敏誌
 dogs5086@yahoo.co.jp

宮城野高校では隔年で同窓会総会を開催しています。総会では同窓会の活動を報告します。同日には各回生との交流の場としての懇親会も行い、例年多くの同窓生の再会の場として利用し

第四回同窓会総会のお知らせ

てもらっています。今年度(平成二十年)の総会の詳細については追って書類をお送りします。皆様のお越しをお待ちします。

編集後記

意見交換をしながらの編集作業は面白かったです。今回お世話になった方々に感謝しつつ、より良いものを作っていくためにこれからも頑張っていきたいと思っております。(十回生 相澤) 今年も出来ました!! 皆様本当にご協力ありがとうございました。ちゃんと読んであげてください。(六回生 片平)

平成18年度 宮城県宮城野高等学校同窓会 決算書

(単位:円)

収支対照	収入額	支出額	残額	摘要
	8,946,747	999,439	7,947,308	

収入内訳

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	1,501,200	1,503,000	1,800	@1,800*835 (転入生含む)
入会金	281,000	281,000	0	@1,000*281
繰越金	7,089,747	7,089,747	0	
雑収入	55,819	73,000	17,181	同窓会懇親会会費
合計	8,927,766	8,946,747	18,981	

支出内訳

項目	予算額	決算額	増減	摘要
1 総務費	610,000	36,525	-573,475	
(1) 会議費	30,000	4,020	-25,980	
(2) 旅費	100,000	0	-100,000	
(3) 需用費	350,000	1,869	-348,131	Webサイト運営資料
(4) 通信費	70,000	2,020	-67,980	郵送料
(5) 慶弔費	50,000	28,616	-21,384	香典、他
(6) 雑費	10,000	0	-10,000	
2 事業費	8,136,766	962,914	-7,173,852	
(1) 総会費	500,000	490,949	-9,051	
(2) 会報発行費	550,000	189,735	-360,265	会報印刷・送付用切手
(3) 名簿編集費	0	0	0	
(4) 支部助成費	100,000	0	-100,000	
(5) 卒業式補助費	300,000	245,437	-54,563	卒業証書ホルダー
(6) 在校生支援費	0	0	0	
(7) 卒業生企画支援費	200,000	0	-200,000	
(8) Webサイト費	100,000	36,793	-63,207	ホームページ立ち上げ、Webサイトサーバーレンタル
(9) 積立費	6,386,766	0	-6,386,766	
3 予備費	181,000	0	-181,000	
合計	8,927,766	999,439	-7,928,327	

監査の結果、帳簿並びに諸書類ともに、正確かつ適切に処理されていることを認めます。

平成 20 年 9 月 20 日

宮城県宮城野高等学校 同窓会

監事

金内 康祐

監事

上野 岳